

# 目次

まえがき . . . . . 3

## 第一章 育児の目標と方針の立て方

1	子供は授かるもの . . . . .	18
2	子育ては祖先の命令 . . . . .	20
3	子供は親に保護と指導を求めている . . . . .	22
4	妊婦の心理と育児方針 . . . . .	24
5	子供は誰のものなのでしょう . . . . .	26
6	生命の持つ四つの意味 . . . . .	30
7	日本人という民族の生命 . . . . .	33
8	誰のようになりたいのか 何に人生を懸けるのか . . . . .	37
9	期待される大人像とは . . . . .	38

10	「他人に迷惑をかけない人になれ」は最悪の育児方針 . . . . .	43
11	人は愛する人のために尽くす . . . . .	46
12	「お前を頼りにしている」 . . . . .	49
13	善悪をはっきり教える . . . . .	53
14	「悪」の一点張りのこと . . . . .	55
15	愛の強制力―黙ってお母さんの言いつとおりになさい . . . . .	58
16	遵法精神を躰けましょう . . . . .	60

## 第二章 妊娠中に起こる変化と気づく変化

17	一姫二郎とは . . . . .	64
18	妊婦の体育 . . . . .	66
19	人類の子は動物としては早産児 . . . . .	68
20	子宮の宿命 . . . . .	70
21	妊娠中の体力づくり . . . . .	73
22	妊娠中の注意事項、禁止事項 . . . . .	75

24	23
発育は自動調節になっている	悪阻(つわり)とは
83	78

### 第三章 育児は胎児のときから始まる

25	子供は必ずおみやげを持ってくる	88
26	わが子の素姓	92
27	家族の中には順位が必要	94
28	胎児はすでに学んでいる	96
29	胎児の発育の様子	98
30	胎児の知覚	101
31	胎児には意思も感情もある—胎教のポイント	103
32	母子の絆は胎内で芽生える	106

### 第四章 母子は一体

33	母子同床が大原則	110
----	----------	-----

34	理想的な出産	112
35	人生で一番大事な最初の1時間—生後1時間のポイント	115
36	新生児室に母の顔はない	117
37	感性豊かな母親になろう	120
38	何よりも大切な「母子一体感」—母子一体感のポイント	122
39	「刷り込み」理論を理解しましょう	125
40	人間への出発	127
41	何より抱っこ—とにかく抱っこ—この時期のポイント	129
42	愛着行動(アタッチメント)とは	136
43	子供の心の安全基地	139
44	「母子の世界」の始まり	141
45	三歳前後の「母子の世界」	143
46	「時間」を覚えるとき	146
47	知能の基礎は言葉と時間	148
48	切り離すことのできないう母子の心	152

49	幼児の心の内と外	155
50	食べ物の好き嫌いは親が作る—ときにはちょっとしたお芝居も	158

## 第五章 父親の役割、母親の役割

51	父の出番—母親の強い後ろ盾になる	164
52	父親は子供と遊ぶのを一番の楽しみにしよう	166
53	父親は大いに人生を語るべし	168
54	善悪と真実の人生か 損得と妥協の人生か	170
55	母親は朝寝坊をしてはいけません	173
56	規則正しい生活をしましょう	175
57	連休や来客は育児の大敵	177
58	体内時計	180
59	乳幼児と体内時計	182
60	母親はいつも家にいること	184
61	母は空母、子は艦載機	186

62	抱っこはいつ頃までやればいいのでしょうか	189
63	アタッチメントの形成を阻むもの	191
64	母性的養育喪失の結果	193
65	母子の離別が非行の最大原因	196
66	アタッチメント形成不全と世代間伝達	198
67	愛着対象の喪失	202
68	体罰の是非	205
69	病識と予防注射	209

## 第六章 赤ちゃんの「衣」「食」「住」

70	育児のための衣服の条件	214
71	赤ちゃんは事故の危険に常にさらされている	218
72	赤ちゃんだってオムツは嫌い	220
73	オムツはまさに合理的	223
74	指なし手袋は頭を悪くする	225

75	靴下は運動神経を鈍くする	227
76	母乳育児を成功させるには	229
77	母乳の上手な飲ませ方	231
78	人工栄養とは	234
79	人工栄養で忘れてはいけない留意点	236
80	ミルクの味と匂いを覚えておくこと	240
81	混合栄養にすると母乳が出にくくなる	242

## 第七章 健全な食習慣を躰よう

82	食事の始まりは躰の始まり	248
83	食事の練習こそ躰のチャンス	251
84	食事中の体罰について	254
85	食べ物の好き嫌いをいじめる	256
86	薬を上手に飲ませるコツ	258
87	子供の肥満	262

88	食べ物と母親の主導権	265
89	朝に軽く、夜に重く	267
90	豪華な食事は夕食で	269
91	子供の便秘	271
92	もっと野菜を食べせよう	273
93	子供に野菜は煮物が一番	276
94	肉をたくさん食べれば国際人になるのか	278
95	子供も参ったアメリカ食	280
96	ボロ屋のほつが安心	282

## 第八章 子供の病気と事故

97	子供の病気は親からなおせ	286
98	病気も親と子の生活の一部	288
99	子供の主な死因	290
100	病気で死ぬ子は少ない	293

101	病気に立ち向かおう	295
102	治療は病気との戦い	297
103	不慮の事故の防止策	299
104	病気のとらえ方	304
105	発熱は対抗手段	306
106	発熱に対する心構え	308
107	いろいろな症状の受けとめ方	315
108	病気の時の食べ物	323
109	病気の時の生活管理	328
110	重症度の判定の仕方	330

**第九章 母性を超える愛はない**

111	育児は労働ではありません	334
112	母性発生システム（母性発生装置集合体）	338
113	子供と離れると母性は発達しない	341

114	子供にとって母親から離されること以上の不幸はない	342
115	母性の劣化はいつから始まったのか	345
116	未熟母性と虚弱父性	350
117	人間は人のために生きる	352

あとがき	356
参考文献	359